

月報 シオン山

2021年11月7日発行 (No374)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

【月間聖句】

わたしの与える実りは どのような金、純金にもまさり

わたしのもたらす収穫は 精選された銀にまさる。

(箴言 8章19節)

母の召天

田中登美子

母が亡くなって20年の歳月が過ぎました。私も母が亡くなった年齢になり月日の経つ速さに只々驚いています。

母は今から20年前の1月中旬、食欲がなく体調がすぐれないので病院で検査をしたいと言って入院を致しました。病院は元、貴船町にありました記念病院でした。主治医は西南女学院卒業生のご主人の野坂先生でした。その後、1月末の朝、礼拝後職員室にいますと、野坂先生より電話があり「お母さんの病状はステージIVのすい臓がんです」と言われ、私はショックで言葉を失い深い悲しみで一杯になりました。その日の午後より早退させて頂き病院へかけつけ母の病室へ行きますと、母は思ったより元気で普通に話す事が出来ました。その後先生の所へ呼ばれ、母の病状を詳しく説明して下さいました。「お母さんは、すい臓がんの末期で余命あと4か月と言われました。その時、私は、ガン家系ではないのにどうして、と頭の中はそのことで一杯になりました。

それから1か月後2月末に南小倉駅近くにある新栄会病院へ転院することになり、学校の帰りに毎日通うことができ、母と過ごす時間が取れ安心致しました。城前牧師先生にお伝えしますと、先生は度々母の病室を訪ねて下さりさやしく慰めや、励ましの言葉をかけて下さり、母は初めてお会いしてとても喜んでいました。又、祈ってくださったことをとても有り難いとも言っていました。

母は、教会には、私の結婚式と娘の(基子)のコンサートで何度か行ったことがありました。私たち家族が、クリスチャンで教会に通っていることはよく知っておりました。孫たちからも教会学校のことや礼拝のことなど聞いていました。キリスト教について、あまり知らない母は、ある時から、NHK教育テレビで、仏教とキリスト教についてという番組を何回か聴いていたようで、私が病室を訪ねたとき、色々とキリスト教について聞いてきました。私もできる限り、解りやすく、お話し致しました。

5月には入り、連休後に、病状もだんだんと進んで厳しくなって参りました。博多に住んでいた長男も、毎週末になると、病室を訪ね、母との面会を重ねてきました。母との対話の中で長男は、神さま(イエスさま)について色々と語り、母も少しずつ解ってきたようでした。私と長男で祈りました。母は、だんだんと目を閉じて眠りにつきました。

あくる日の朝、私と長男で病院へ行き、母と話す事ができました。その時、長男が「おばあちゃんは神さま(イエスさま)を信じているか、どうか」と語りかけると、母は信じていると答えました。早速、私たちは城前先生に連絡をし病室に来ていただき少しお話をさせていただきました所、母は信仰決心を致しました。2日後に病床で代表執事の大里兄、内田夫妻、城前夫人、私、出席のもと、バプテスマを受け、クリスチャンになり、その5日後に天に召されました。私たち家族は安心して見送る事がきました。

母は、このような形で神さまに導かれて信仰決心をし旅立つことができたことを感謝していることと思っています。

母の好きだった聖句

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。」 テサロニケの信徒への手紙一 5章16～18節